

美術家

野老 朝雄さん

多様性を実感できるエンブレムで、 平和の祭典を成功させたい

東京2020オリンピック・パラリンピックの公式エンブレムの

デザイナーを手掛けた美術家の野老朝雄さんに、

エンブレムの誕生秘話と、デザインに託した思いを語っていただきました。

両親の影響や 多感な時期を経て、建築の道へ

両親が建築設計事務所を営んでいたことから、ごく自然に建築の道へと進んでいきました。将来は大学で建築を学び、建築家になるのかなあと思いつながら漫然と、小学校から高校まで公立の学校に通いました。

中学時代、学級崩壊という言葉がニュースになったりして、私が通う中学校も、クラスが荒れていたように思い

ます。その当時学校には竹刀を持った先生がいましたし、道路でもない校舎の4階になぜか原付バイクが運ばれていた。今も記憶に残っています。

様々な生活環境の中で、友人たちと過ごした思春期が、ある意味で、私が多様性を意識する土台になったのかもしれない。

また、やんちゃだった友人が、20歳代で何軒ものガソリンスタンドを経営し、結婚もして、真面目に働いているという話を聞くと、生きていくために必要な根性を

日本らしさを表現する、 藍色の魅力

エンブレムのデザインには、「伝統」と「革新」を表現しました。「伝統」は、日本らしい意匠の市松模様を残し、「革新」はアルゴリズムという数学の解析にも耐え得る数学的な根拠です。

また、江戸時代の日本橋を描いた絵巻『熙代勝覧』（きだいしょうらん）に見られる暖簾の藍色の美しさに、日本らしい美的なセンスを感じ、藍色の表現にこだわりました。自然の力を活用する藍染で、図師と呼ばれる職人さんの技の素晴らしさを世界に伝えたいですし、江戸小紋にも通じる藍色に白抜きの家紋や屋号は、再認識されるべき江戸の粹、カッコ良さだと思っています。

多様性を受け入れる象徴

エンブレムの原型のパズルは、同じ面積の中で、ピースを動かすと連続的に紋様が変化します。オリンピックタイプでは約50万通り以上、パラリンピックタイプでは約300万通り以上、60ピースでは約237億通り以上になり、その多くの組み合わせによって多様性が認知されること、オリンピック・パラリンピックのエンブレムとしての真価の象徴となっています。

9・11同時多発テロや3・11東日本大震災、そしてこのたびの新型コロナウイルス



気づかせてくれたりもします。

自分の中の平和活動への目覚め

2001年9月11日に発生したアメリカ同時多発テロは、私自身が言葉で表せないほど大きな衝撃を受け、アーティストとして私は、何をすればいいのかと深く考えさせられました。

ハートマークをデザインしてつなげていこうかとか、ピースマークを象徴的にデザインしようかと考えましたが、そのような衝動に駆られた理由の答えは、自分の中の小さな平和活動と言えるかもしれません。

少し飛躍しますが、紙と鉛筆しかないと考えるか、紙と鉛筆があると考えるかで、行動することが変わってきます。私は建築を学んできたので、自分自身も意



識しないまま、コンパスと三角定規を使って紋様をデザインすることで平和への道を模索するしかありませんでした。

2011年3月11日の東日本大震災の時も、あまりの衝撃に手が止まってしまいました。自分で決めたことにとどう対処すればいいのか、大きな出来事による人々の断絶を感じながら、反面、世界とのつながりを強く感じていました。

60個のピースから作られる、 オリンピックのエンブレムの原型

東京2020オリンピックパラリンピックのエンブレムは、大中小と3種類の大きさの異なる60個のピースが組み込まれたパズルが原型です。45個のピースで設計され、その中には15個のピースをはめ込むことが可能です。

私は数学ではなく算数を応用しつつ、コンピュータ（マッキントッシュMac）に助けられ、手探りで幾何学の世界を探索し続けてきました。オリンピック・パラリンピックに採用されたエンブレムが世界に広まることは、数学の理論や算数の得意不得意に関係なく、紋様という図形の楽しさを世界中の子どもたちに伝えるチャンスです。

そしてこのエンブレムは、コンピュータやインターネットのある生活環境に慣れている若い人々の自由な発想の土台になり得るのではないかと思います。

Tokolo Asao (ところ あさお)

1969年東京生まれ。幼少時より建築を学び、江頭慎氏に師事する。2001年9月11日より「繋げる事」をテーマに紋様の制作を始め、美術、建築、デザインの境界領域で活動が続ける。単純な幾何学原理に基づいて定規やコンパスで再現可能な紋と紋様の制作や、同様の原理を応用した立体物の設計・制作も行なっている。主な作品に、大名古屋ビルディング下層部ファサードガラスパターン、東京2020オリンピック・パラリンピックエンブレム、大手町パークビルディングのための屋外彫刻作品などがある。2016年より東京大学工学部非常勤講師、2018年より東京大学教養学部非常勤講師を務める。